

第2章 公園及び公園を取り巻く都市環境における課題

この章では、公園が抱えている課題及び公園に対する新たな要請について整理します。

1 公園が抱えている課題

多様化する地域ニーズへの対応

整備されてから数十年が経過し、施設が老朽化して使いづらくなった公園や、公園の周辺環境に適合できなくなった公園もでてきており、これらの公園を地域のニーズに応じたものへと再生していくことが必要です。

これまでの公園では見られなかった、花壇づくり、多様で自由な活動ができる遊び場、スケートボード、BMXの利用など新たな利用が求められています。これらのニーズの受け皿としても、公園を有効に再生・活用する必要性が生じています



花壇づくり



BMX (バイシクルモトクロス)

公園の画一化

これまでの公園づくりは、主に行政・コンサルタントなどの専門家主導により行ってきました。

経験を積んだ専門家による公園づくりは、量が求められる時代には、短期間に能率よく作業を行うことができる点で優れており、このことが特に問題視されることはありませんでした。

しかし、近年、少子高齢化社会の到来や市民の価値観の多様化とともに、これまでの専門家主導による管理面・公平性を重視し、市民ニーズを包括的にとらえた標準設計の公園づくりに対し、「公園は画一的だ」「公園が使われていない」といった「公園を使う側からの声」が聞かれるようになりました。

これからは、公園を利用する「市民」の目線で、地域の特性や市民の声を活かした公園づくりを進めていく必要があります。

一律的な公園管理

公園管理者は、公園の管理にあたって、「誰もが利用できるようにするために」という公共性や事故に対する安全性を重視しています。しかし、このことは一方で、市民の柔軟な発想での使用に対して制限をもたらしています。

そして、このことが、「公園は禁止事項が多い」「公園では何もできない」といった批判の声となって行政に寄せられるようになりました。

今後は、市民から改善を求められている利用上の諸規則、例えば、ボール遊び、スケートボード、BMXの利用、火の使用などに対する禁止や制限などを、市民の自主管理の範囲を拡大しつつ、一定のルールのもとで緩和を図っていくことが必要です。

公園利用のマナーの低下

近年、一部の心ない利用者による夜間の騒音、施設の破壊、破損、いたずら書き、犬のフンの不始末、空き缶やごみの散乱など、利用者のマナーの低下が問題となっています。特に、公園付近の近隣住民にとっては深刻な問題であり、「公園は迷惑施設」との厳しい意見も聞かれるようになりました。このような状況の中、治安や風紀上の問題を解決しつつ、気持ちよく利用できる状況を創り出していくことが必要です。

2 公園に対する新たな要請

希薄化した地域コミュニティの再生

わが国には、かつて、井戸端、路地裏、境内地といった身近な空間がまちにあふれており、そのような場所で、地域の交流が盛んに行われていました。しかし、都市化の進展とともに、このような空間が失われてきました。これからは失われた空間が果たしてきた地域とのかかわり・コミュニティの形成といった役割や機能を公園が担うことが求められています。

少子高齢化社会への対応

少子高齢化の流れの中、次代を担う子どもの健全な発育は、広島市の将来を左右する大きな課題です。子ども時代には屋外で、自然に親しみ、集団の中で、身体を自由に動かして遊ぶことが必要です。

しかし、現在の子どもの生活空間は多様性に乏しく、また時間の自由度も少ないなど、子どもを取り巻く環境は極めて深刻なものとなっています。時代とともに、子どもの遊び場として公園に期待される役割はますます大きくなっています。

平均寿命の延命化とともに、人口構成は著しく変化し、近年、高齢社会を迎えています。

高齢化の進展と生活習慣病の増加などに伴い、健康に対する関心も高まりつつあり、高齢者が健康運動や生涯学習・文化創作活動などを積極的に楽しむようになってきています。

このような状況の中、公園においても、自由時間における各種の活動や社会参加など、高齢者の生きがいづくりの場としての機能を果たしていくことが求められています。

青少年の居場所づくりへの対応

21世紀の広島市のまちづくりの担い手として青少年の役割は大きく、青少年の育成・成長支援は重要な課題です。

今日の青少年問題は、少年非行の粗暴化・凶悪化・不登校児童生徒の急増などにより一段と深刻さを増しています。

その背景には、青少年自らが汗を流して夢中になれる居場所がないことなどが、指摘されています。

次代を担う青少年の豊かな人間性と生きる力を育むための青少年の心の居場所づくりとしても、公園の役割が求められています。

都市環境の保全・改善や自然との共生への対応

二酸化炭素の排出に伴う温暖化など地球規模の環境問題や都市における身近な自然の減少に伴って、自然の保全、創出、自然とのふれあいなど、市民の都市環境に対する関心が高まってきています。こうした中、都市において公園は貴重な自然環境を保全、創出するとともに、様々な生物の生息、生育環境として、都市における野性生物の多様性を確保し、次世代に継承していくことが求められています。

安心できる公園づくりへの対応

これまで、わが国では、諸外国と比較して犯罪発生率が低く、安全で良好な社会秩序が保たれていました。しかし、社会の匿名性の増大や市民の連帯意識の希薄化などを背景に、犯罪の発生件数は急激に増加するとともに、その内容も複雑化、凶悪化し、治安の悪化が懸念されています。

地域の子どもたちの遊び場である公園についても、例外ではなく、むしろ、「公園は危ない」「公園で子どもが犯罪にあう」など公園を不安視する声が多く聞かれます。このような状況の中、今後の公園づくりにおいて防犯に対する視点は不可欠です。